

平成 22 年 5 月 7 日現在

研究種目：特定領域研究

研究期間：2005～2009

課題番号：17063009

研究課題名（和文） 総合的研究手法による西アジア考古学

研究課題名（英文） Archaeological Research in West Asia based on Integrated Research Methods

研究代表者

大沼克彦 (OHNUMA KATSUHIKO)

国士舘大学・イラク古代文化研究所・教授

研究者番号：70152204

研究成果の概要（和文）：

特定領域研究「セム系部族社会の形成」を総括する本研究班は、平成 17 年度～21 年度の研究期間に、研究会議、講演会、公開シンポジウムの定期的開催によって研究を蓄積し、ホームページの頻繁な更新と研究成果報告書やニューズレターの定期的出版を通して研究成果を迅速に公表した。これらの総括班活動に加え、14 次にわたるシリア現地調査を統括し、国内・外での関連研究を促進した。この一連の連携研究により、1) 研究開始時点の領域全体の主要目的「異なる研究機関・分野の融合的連携に基づく総合的研究」を実現し、2) 研究開始時点の領域の全体仮説「ユーフラテス河中流域アモリ人集団の通時的乖離と統合」を考古学的痕跡から現在実証しつつある、という 2 つの大きな成果を得た。

研究成果の概要（英文）：

This research team supervising the Research Project “Formation of Communities of Semitic Tribes” (Grant-in-Aid for Scientific Research on Priority Area) regularly held research meetings and open lectures/symposia in 2005 - 2009 to accumulate knowledge in the research field concerned. It renewed the homepage and published research reports and newsletters on regular/frequent bases to open our research results to the public as quick as possible. In addition to these research activities, it supervised 14 times of surveys and excavations in Syria after arranging schedules of the research teams, encouraging also related research in Japan and abroad. Two important results were achieved through the series of cooperative research activities. One of them is that we could materialize the major objective of the research project, that is, integrated research based on harmonized cooperation of different institutions and/or research fields. Another is that we could acquire archaeological evidences to prove our initial hypothesis that the Semitic tribes along the Middle Euphrates repeated separation and re-unification through history.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	4,900,000	0	4,900,000
2006 年度	6,900,000	0	6,900,000
2007 年度	6,900,000	0	6,900,000
2008 年度	6,900,000	0	6,900,000
2009 年度	11,300,000	0	11,300,000
総計	36,900,000	0	36,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：西アジア考古学、セム系部族社会、ユーフラテス河中流域、ビシュリ山系

1. 研究開始当初の背景

欧米調査団が 150 余年にわたり考古学調査・研究をおこなってきた西アジア地方で邦人の大学や研究機関が 1956 年以来おこなってきた調査・研究は、精密かつ客観的な研究方法により、世界的に高い評価を受けてきた。

しかしながら、邦人による一連の調査・研究が複数研究機関・研究分野の連携にもとづく総合的な研究だったとは言い難いことも事実である。

このような観点から、邦人調査団が蓄積してきた研究成果と個別性を踏まえつつも個別の枠にとらわれない、複数研究機関・研究分野の融合的連携を通じた総合的な研究として開始したのが本研究を総括班とする特定領域研究「セム系部族社会の形成：ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」である。

2. 研究の目的

上述の特定領域研究は、アッシリア、バビロンなど西アジアの古代王国を創建したセム系部族アモリ人の原郷とされるユーフラテス河中流域ビシュリ山系で総合調査をおこない、1) 同地の自然と文化の変遷を解明し、2) 同地の先史社会が定住社会を経て古代都市社会へ発展した経緯と、3) 定住社会出現のなかでセム系アモリ部族社会が形成された経緯を解明し、4) 遊牧部族社会の流入と離脱を不断に繰り返してきた西アジア地方の都市的村落の歴史的特性を解明することを目的とする。そして、これらの解明に向け、5) 異なる研究機関・研究分野に属する複数研究班の融合的連携に基づく総合的な研究を実現することを目的とする。

この研究目的を達成するため、総括班としての本研究は領域全体の研究方向を調整し、統括する。そして、そのための研究活動を推進する。

3. 研究の方法

総括班会議と研究代表者会議を定期的に開催する。領域全体の研究成果を迅速に公表するためにホームページを頻繁に更新し、報告書、ニューズレターを定期的に出版する。

研究会、講演会、シンポジウムを開催して研究を蓄積する。領域研究に参加する大学院生等の若手研究者に研究成果の発表を積極的に推奨し、当該研究の専門研究者として育成する。外部評価を開催して、研究の進行状況と進行方向に関する評価と助言を得る。

以上の研究活動に加え、シリアにおける現地調査を統括的に促進する。現地調査ではまず遺跡の分布調査をおこない、遺跡の年代と分布状況を解明する。次いで、分布調査の成果に基づき、領域の全体課題を解明するために格好な複数遺跡を選択して発掘調査を実施する。発掘調査には、遺物、遺構、動物骨、土壌、地形・地質などを研究する自然科学研究班も合流する。最終年度には、蓄積した発掘・調査成果を踏まえた総括的研究と補足的な研究をシリア現地で実施する。国内・外における関連研究はシリア現地調査に併行して促進する。

4. 研究成果

平成 17 年度から 21 年度の 5 年にわたる研究期間に、総括班会議 (18 回)、研究代表者会議 (18 回) を定期的に開催した。領域全体の研究成果を迅速に公表するためにホームページを頻繁に更新し (38 回)、研究成果報告書 (9 回) とニューズレター (18 回) を定期的に出版した。研究会 (10 回)、講演会 (6 回)、シンポジウム (6 回)、国際シンポジウム (1 回) を開催して研究を蓄積した。領域に参加した大学院生等の若手研究者に研究成果の発表を積極的に推奨し(発表会：2 回、出版：1 回)、当該研究の専門研究者として育成するように尽力した。外部評価を 2 回開催して、研究の進行状況と成果に関する評価とその後の研究方向に関する有益な助言を得た。

以上の研究活動に加え、研究班各々の日程を調整しながらシリアにおける現地調査を統括的に促進し、国内・外関連研究での連携研究活動を以下のように統括的に促進した。

シリア現地調査における連携の促進：第 1 次 (平成 19 年 2 月～3 月)：総括班 (調査統括のための参加：以下同様)、研究項目 A01、研究項目 A02、研究項目 A03、研究項目 A04、

研究項目 A05、第 2 次（平成 19 年 4 月～5 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A03、研究項目 A04、第 3 次（平成 19 年 7 月～8 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A03、研究項目 A04、研究項目 A05、公募研究（「北方ユーラシア遊牧民部族社会の考古学的研究」、第 4 次（平成 19 年 11 月～12 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A02、研究項目 A03、研究項目 A04、第 5 次（平成 20 年 3 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A03、第 6 次（平成 20 年 4 月～6 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A03、第 7 次（平成 20 年 10 月～12 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A03、研究項目 A04、公募研究（「人類学・歴史学によるアラブ系部族組織再考」、第 8 次（平成 21 年 2 月～4 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A02、研究項目 A03、公募研究（「人類学・歴史学によるアラブ系部族組織再考」、第 9 次（平成 21 年 5 月～6 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A03、第 10 次（平成 21 年 7 月～9 月）：総括班、研究項目 A01、研究項目 A03、第 11 次（平成 21 年 10 月）：研究項目 A01、第 12 次（平成 21 年 11 月）：研究項目 A03、第 13 次（平成 21 年 12 月）：研究項目 A04。第 14 次（平成 22 年 2 月～3 月）：研究項目 A01。

国内・外での関連研究における連携の促進：シリア現地調査で出土した動物骨と種子の研究および動物家畜化過程と農耕・牧畜技術発達過程の研究、発掘で出土した人骨の形態人類学的研究、発掘で出土した試料の C14 年代測定と岩石・鉱物試料の同定研究、古代文字資料にあらわれる動植物の利用に関する研究、古代オリエント博物館におけるシリア現地調査最新成果のパネル展示公開（平成 21 年 2 月 14 日～3 月 15 日）、国際シンポジウム ”Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria” の開催（平成 21 年 11 月 21 日～23 日：サンシャインシティー文化会館）。

これら一連の研究活動を通して、研究開始時点の主要な目的であった「異なる研究機関・研究分野の融合的連携にもとづく総合的研究」を実現したことは大きな成果である。

研究自体でも重要な成果を得た。

領域全体で実施した一連の調査・研究は、ユーフラテス河流域の村落遺跡・ガーネム・アル＝アリ遺跡と直近墓遺跡群の両者（前期青銅器時代）がビシュリ砂漠台地のビシュリ山北縁ケルン墓群（中期青銅器時代）と異なる年代であることを明らかにしたが、このことを通して、研究開始時点で領域全体の仮説

ではあったものの具体的根拠に裏づけられていなかった「アモリ人集団内部の通時的構造変化」の内実を、考古学的な具体的痕跡を通して現在実証しつつある。

すなわち、ユーフラテス河中流域の新石器時代に農耕と家畜飼育の 2 つを同時に生業としていたアモリ人集団が、それ以後、おそらく気候変動、政治的混乱などの要因から、「農耕生業（ユーフラテス河流域の村落遺跡）と遊牧生業（ビシュリ砂漠台地）への二分化（青銅器時代以前）→ 農耕生業と遊牧生業の再統合（ユーフラテス河流域の村落遺跡：前期青銅器時代）→ 農耕生業（ユーフラテス河流域の村落遺跡）と遊牧生業（ビシュリ砂漠台地）への二分化（中期青銅器時代）→ 農耕生業と遊牧生業の再統合（ユーフラテス河流域の村落遺跡）→・・・」という生業の二分化と再統合を繰り返したという図式である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

大沼克彦、ガーネム・アル＝アリ遺跡の発掘、紀元前 3 千年紀の西アジア：ユーフラテス河中流域に部族社会の原点を探る、査読無、2010、21-29

長谷川敦章・大沼克彦、農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア、ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の 2009 年度発掘調査、考古学が語る古代オリエント（第 17 回西アジア発掘調査報告会報告集）、査読無、2010、70-75

Ohnuma, K. and Anas Al-Khabour, Integrated Research in the Bishri Region, *Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria*, 査読無、2010、3-8

Al-Maqdissi, M., Ohnuma, K. and Others, Preliminary Reports of the Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Region of Ar-Raqqa, Syria, 2009, *Al-Rafidan*, 査読無、XXXI 巻、2010、97-207

大沼克彦、総括班「総合的研究手法による西アジア考古学」、セム系部族社会の形成：平成 19 年度研究報告、査読無、2009、1-3

大沼克彦・長谷川敦章、農耕と牧畜のは

ざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア、ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の 2008 年度発掘調査、考古学が語る古代オリエント（第 16 回西アジア発掘調査報告会報告集）、査読無、2009、76-79

Ohnuma, K., Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Bishri Region, 2007-2008, *History and Antiquities of Al-Golan, 2008-2007*, 査読無、2009、99-114

Ohnuma, K. and A. Al-Khabour, Integrated Research in the Bishri Region, *Abstracts of International Symposium: Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria* (November 21-23, 2009), 査読無、2009、2-3

Al-Maqdissi, M., Ohnuma, K., Al-Khabour, A., Sultan, A. and others, Preliminary Reports of the Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Region of Ar-Raqqa, Syria, 2008, *Al-Rafidan*, 査読無、XXX 巻、2009、135-225

長谷川敦章・木内智康・根岸洋・大沼克彦、農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア、ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の 2007 年度発掘調査『考古学が語る古代オリエント（第 15 回西アジア発掘調査報告会報告集）、査読無、2008、62-69

Al-Maqdissi, M., Ohnuma, K., Al-Khabour, A. and others, Preliminary Reports of the Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Region of Ar-Raqqa, Syria, 2007, *Al-Rafidan*, 査読無、XXIX 巻、2008、117-193

大沼克彦、総括班「総合的研究手法による西アジア考古学」、セム系部族社会の形成：第 3 回シンポジウム「平成 17~18 年度の研究成果」、査読無、2007、60-62

大沼克彦、総括班「総合的研究手法による西アジア考古学」、セム系部族社会の形成：平成 18 年度研究報告、査読無、2007、1-13

大沼克彦、総括班「総合的研究手法による西アジア考古学」、セム系部族社会の形成：第 2 回シンポジウム「研究の現状と課題」、査読無、2006、1-3

大沼克彦、総括班「総合的研究手法によ

る西アジア考古学」、セム系部族社会の形成：平成 17 年度研究報告、査読無、2006、1-2

[学会発表] (計 10 件)

長谷川敦章・大沼克彦、農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア、ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の 2009 年度発掘調査」日本西アジア考古学会第 17 回西アジア発掘調査報告会（平成 22 年 3 月 28 日：池袋サンシャインシティ文化会館）

Katsuhiko Ohnuma and Anas Al-Khabour, Integrated Research in the Bishri Region、国際シンポジウム「Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria」（平成 21 年 11 月 21 日：池袋サンシャインシティ・グランドホール）

大沼克彦・長谷川敦章、農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア、ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の 2008 年度発掘調査」日本西アジア考古学会第 16 回西アジア発掘調査報告会（平成 21 年 3 月 15 日：池袋サンシャインシティ文化会館）

Katsuhiko Ohnuma, Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Bishri Region, 2007-2008、国際シンポジウム「Al-Golan Colloquium: The History and Antiquities of Al-Golan」（平成 20 年 11 月 11 日：シリア考古博物館庁（ダマスカス市）

長谷川敦章・木内智康・根岸洋・大沼克彦、農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリアビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の 2007 年度発掘調査、日本西アジア考古学会第 15 回西アジア発掘調査報告会（平成 20 年 3 月 15 日：池袋サンシャインシティ文化会館）

[図書] (計 28 件)

大沼克彦（編）、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成：ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、「セム系部族社会の形成」ニューズレター、18 号~1 号、2010~2005

（18 号（2010、全 24 頁）、17 号（2010、全 16 頁）、16 号（2009、全 21 頁）、15

号 (2009、全 16 頁)、14 号 (2009、全 19 頁)、13 号 (2009、全 17 頁)、12 号 (2008、全 18 頁)、11 号 (2008、全 30 頁)、10 号 (2008、全 16 頁)、9 号 (2008、全 12 頁)、8 号 (2007、全 24 頁)、7 号 (2007、全 20 頁)、6 号 (2007、全 28 頁)、5 号 (2007、全 24 頁)、4 号 (2006、全 28 頁)、3 号 (2006、全 29 頁)、2 号 (2006、全 26 頁)、1 号 (2005、全 24 頁))

Ohnuma, K. (編), 文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、*Formation of Tribal*

Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria, 2010, 186ps.

大沼克彦・西秋良宏 (編)、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、紀元前3千年紀の西アジア: ユーフラテス河中流域に部族社会の原点を探る (= セム系部族社会の形成: 第5回シンポジウム「紀元前3千年紀の西アジア: ユーフラテス河中流域に部族社会の原点を探る」報告集)、2010、全186頁

佐藤宏之 (編)、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、若手研究者成果論集、2010、全 76 頁

大沼克彦 (編)、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、セム系部族社会の形成: 平成 19 年度研究報告、2009、全 92 頁

Ohnuma, K. (編), 文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、*Abstracts of International Symposium: Formation of Tribal*

Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria (November 21-23, 2009), 2009, 60 ps.

前川和也 (編)、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、シリア・メソポタミア世界の文化接触: 民族・文化・言語 (特定領域研究「セム系部族社会の形成」平成 20 年度研究集会報告)、2009、全 124 頁

大沼克彦 (編)、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、セム系部族社会の形成: 第 3 回シン

ポジウム「平成 17~18 年度の研究成果」、2008、全 62 頁

大沼克彦 (編)、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、セム系部族社会の形成: 平成 18 年度研究報告、2007、全 166 頁

大沼克彦 (編)、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、セム系部族社会の形成: 第 2 回シンポジウム「研究の現状と課題」、2006、全 62 頁

大沼克彦 (編)、文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成: ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班発行、セム系部族社会の形成: 平成 17 年度研究報告、2006、全 107 頁

[その他]

ホームページ: (平成17年9月14日に開設し、平成22年4月時点で38度更新した)

<http://homepage.kokushikan.ac.jp/kaonuma/tokuteiryuiki/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

大沼 克彦 (OHNUMA KATSUHIKO)
国土館大学・イラク古代文化研究所・教授
研究者番号: 70152204

(2)研究分担者

(3)連携研究者

藤井 純夫 (FUJII SUMIO)
金沢大学・人間社会研究域・教授
研究者番号: 90238527
(H17→H19: 研究分担者)

西秋 良宏 (NISHIAKI YOSHIHIRO)
東京大学・総合研究博物館・教授
研究者番号: 70256197
(H17→H19: 研究分担者)

常木 晃 (TSUNEKI AKIRA)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授
研究者番号: 70192648
(H17→H19: 研究分担者)

宮下 佐江子 (MIYASHITA SAEKO)
(財) 古代オリエント博物館・研究部・研究員
研究者番号: 80132760

(H17→H19：研究分担者)

佐藤 宏之 (SATO HIROYUKI)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50292743
(H17→H19：研究分担者)